

第一章 大むかしの小山

小山町のおいたち

いま、わたしたちの住んでいる、小山町は、むかし、相原町とともに、「堺村」とよばれていました。

この堺村は、東西に十二キロメートル、南北は、境川と多摩丘陵にはさまれ、相模原市にせつしている、細長い村です。

いまから、およそ七六〇年位前、鎌倉時代には、相模国高座郡横山庄、渋谷庄の一つにはいつていました。

それから、江戸時代（三八〇年位前）になると、幕府の直轄（じかに、取りしまる）領として、代官（江戸時代に、幕府の土地を

おさめて、ねんぐなどを取りたてる仕事をした役人）や旗本（江戸時代に、將軍にしかにつかえたけらい）領に分けられ、その支配地となっていました。

おなじころ、小山町は、小山村上郷、中郷、下郷の三つの郷（むかし、郡が政治を行うため分けたもので、いくつかの村落を合わせたもの）に分かれ、名主（おもに関東で使われたよび名。関西では庄屋）江戸時代に、町や村をおさめていた人）が、村の政治を行っていました。

明治四年（一八七一）の、廃藩置県（それまで大名がおさめていた藩をやめて、そのか

らためられ、村議会ができました。

そうして、明治二十一年には、小山村と相原村とがいつしよになり、細長い帯状の形をした堺村がたんじようし、明治二十六年には、神奈川県から東京府にうつりました。



旧境川



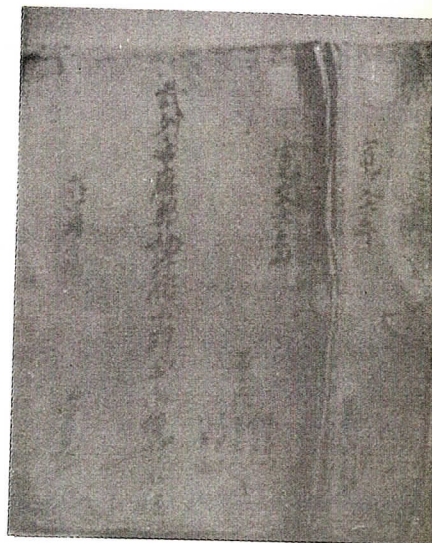
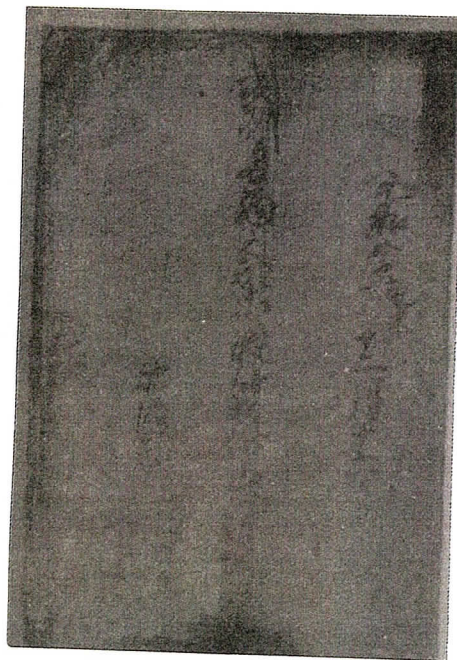
旧境川



農家



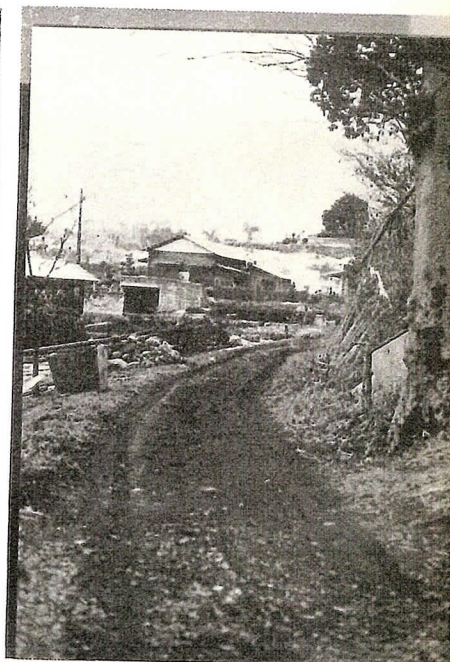
炭やきかまど



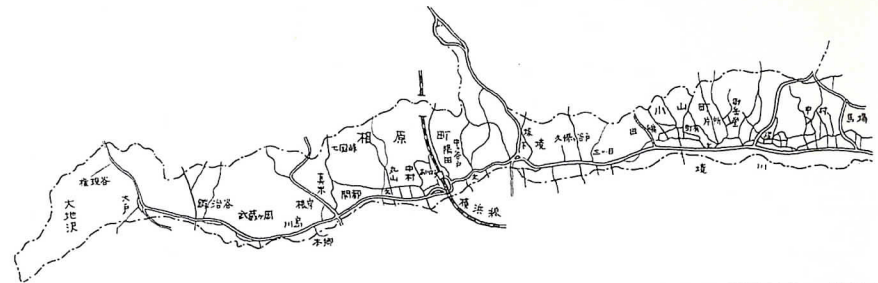
小山のふり文章



むかしの道



むかしの道



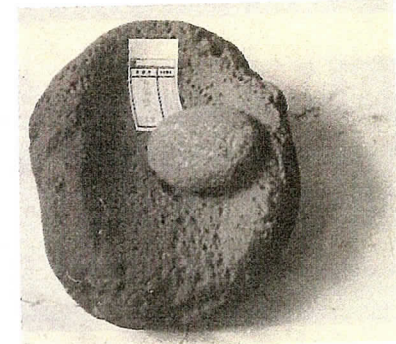
小山町(塚村)の地図



おきて立札(江戸時代)



おきて立札(江戸時代)



石うす



釈迦如来座像



聖観音立像

第二章 開けゆく小山

町田街道

小山町の道は、むかし、甲州街道と言われました。忠生村から、小山、相原を通って、高尾に通じる曲がりくねった細い道でした。この道が、昭和十二年になおされ、横浜街道となりました。道はばも広く、以前にくらべだいぶ便利になりました。

このほか南北に、いくつもの道があり、柚木村に行けるものや、鮎の道とか、絹の道とか言われたものもあります。

田端の坂を登り、柚木を通して八王子に出る道を「絹の道」、柚木から府中にぬける道を

「鮎の道」と言ったようです。

これらの道が、この小山の村にいろいろな文化を運んだ道と言えましょう。

またこのころは、荷物を運ぶには、かたにせおったり、車につんだりしました。自転車は数はおくわずかで、村じゅうでも数台しかなく、めずらしいものでした。



絹の道



絹の道



田端坂上絹の道



絹の道

開けゆく小山



第四章 戦争のころの小山

戦争のころの小山

昭和十二年、中国と戦争を始めた日本は、中国大陸の奥へと、戦うところを広げていきました。この小山町にも、軍隊や戦争などに関係することが、多くなっていきました。となりの相模原市には、陸軍の兵器をつくる建物がつぐられ、淵野辺には、陸軍工学校ができました。

昭和十六年になると、アメリカやイギリスなどの国々をあいてに、太平洋戦争（第二次世界大戦）がはじまり、人びとは、緊張した日々を、むかえることとなりました。千人針（出征兵士の無事をいのるために、

千人の婦人が赤糸で一針ずつぬって、千個のぬい玉をつくった布）を手にもち、出征（戦地に行く）兵士を見送る、女の人の姿が、毎日のようにみられ、戦争は、ますます大きくなっていきました。

村では、バケツリレーで、防空訓練をしたり、防空ごうを掘ったりしました。また、食糧の増産にも力を入れました。しかし、物資はますますたりなくなり、「ほしがりません、勝つまでは」のことが、出たほどです。

そうして、どんなことよりも、戦争に勝つために、国民ひとりひとりが、がんばりつづけました。



昭和17年3月卒業記念



昭和18年ころの小山の生徒



戦車道路



戦車道路



戦車道路

戦車道路

多摩丘陵の尾根に、根岸から田端にかけて、広い散歩道路が、できています。まわりのながめも、すばらしい道路です。

この道路は、相模造兵廠や、陸軍工科学校の、戦車の試験道路で、軍が設計し、つくったものです。それで、この道路のことを、「戦車道路」とよんでいるのです。

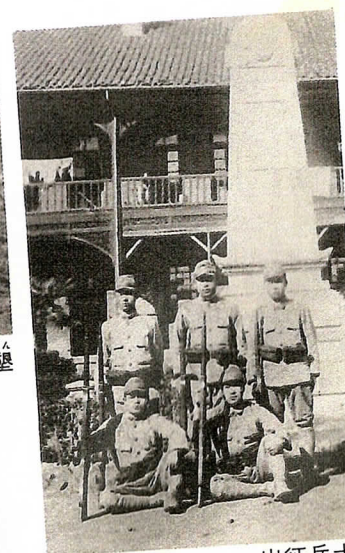
しかし、じつさいには、あまり利用されませんでした。



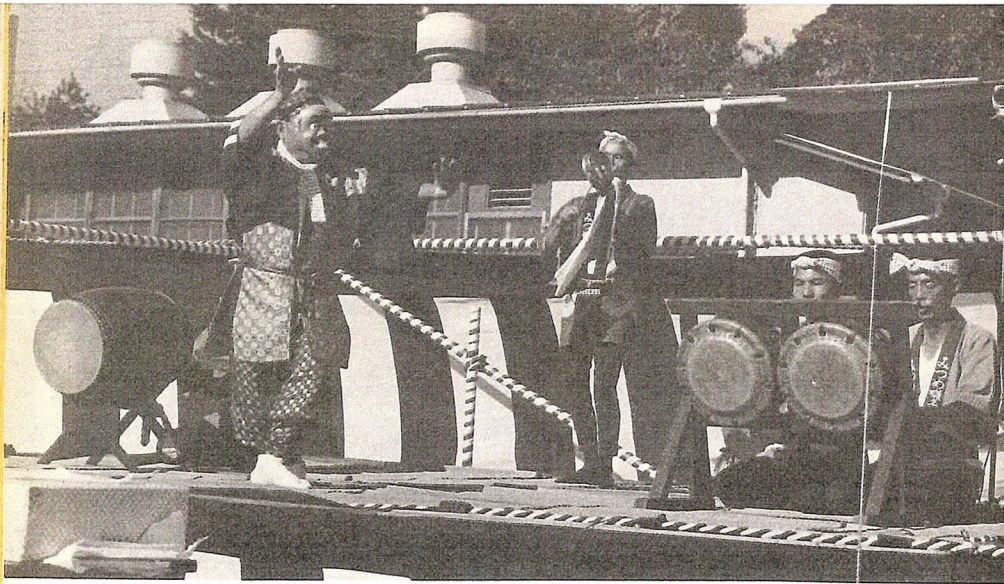
昭和16年3月青年学校生徒の開墾



昭和16年3月青年学校生徒の開墾



出征兵士



三ッ目囃子の由来

三ッ目囃子が小山町に伝わった歴史は幕末の頃である。始め由木に神田囃子や葛西囃子等の祭囃子が伝来し、それが由木囃子と呼ばれる様になり、さらに三ッ目に伝えられて、三ッ目囃子となって、盛んになった。

ところが、幕末になると三ッ目は新選組の近藤勇などとも深い関係があった程だから、維新の騒乱で全く中絶したが、明治12年にふたたび遺水から伝授を得て振興し、年と共に盛んになり、今日では町田市の名物の一つになった。そのため八王子の市民祭や立川方面にまで進出して、祭の風物詩を奏でている。

ことに、昭和25年皇太后陛下の養老振興共進会とか、昭和28年の三笠宮御前演奏等特筆すべきことも多く、明治神宮、靖国神社等の奉納出演もあった。昭和38年町田市無形文化財に指定される。

太鼓

太鼓には、ロープ締とボルト締の2種類があり、ロープ締は屋内、ボルト締は屋外の場合に使用する。

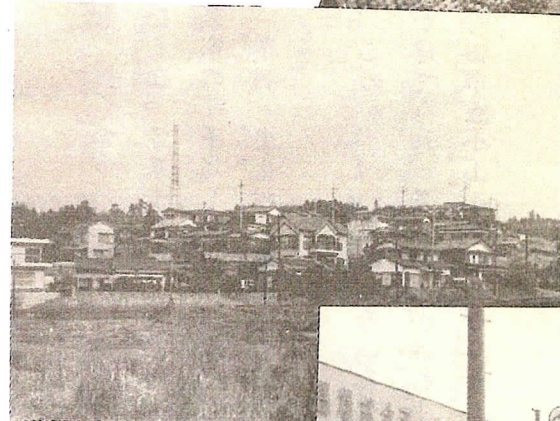
ボルト締はそばで聴いてはうるさく遠音がさえない。ロープ締は反対で、そばで静かに聴こえ遠くまで音がとどく、太鼓の裏皮は絶対に叩かない。

鉦

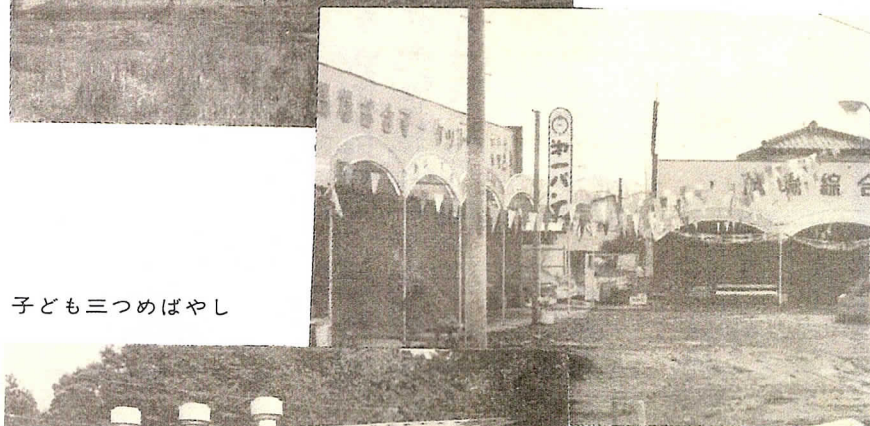
鉦は、別名“ヨスケ”とも言う。昔は太鼓と笛の4人囃子の様であったが、ある時チャンキギ屋が4人囃子に合せて鉦を叩き、以後5人囃子となったところから、ヨスケ（与助）と言われる。

演奏の際は太鼓、笛の前に出て叩かない。鉦を左手で持ち、指で押えたり離したりして音を替える。叩く棒（バイ）打つ（頭の方）は鹿の角。柄は鯨のヒゲであります。

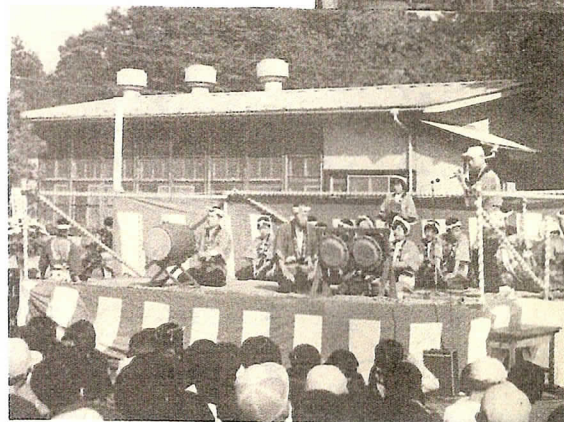
沼田地



改修なった境川



子ども三つめばやし



マーケット（馬場）

百周年校舎全景“人文字”



空から見た小山小学校



全校体操

朝礼



町田市天然記念樹「しだれ桜」



記念植樹